

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年6月17日現在

機関番号：12604
 研究種目：基盤研究（C）
 研究期間：2010～2012
 課題番号：22590456
 研究課題名（和文） 患者情報サービスとしての病院患者図書館を中心とした医療諸問題
 解決策の構築
 研究課題名（英文） Research of the hospital patient library as patient information
 service, and the proposal of health care problem solution.
 研究代表者
 前田 稔 (MAEDA MINORU)
 東京学芸大学・教育学部・准教授
 研究者番号：20376841

研究成果の概要（和文）：

病院患者図書館および公立図書館の質的調査、全国の病院患者図書館の訪問調査、海外の病院患者図書館の訪問調査、児童養護施設の読書環境調査を通じて、健康に関する情報提供と市民生活との関連について、各方面から積極的な活動が展開されている現状が明らかになるとともに、専門的な情報の提供の際には、病院側と市民側との相互協力が課題となることが明らかになった。

研究成果の概要（英文）：

Qualitative investigation to a hospital patient library was conducted. Qualitative investigation to a free library was conducted. The door-to-door survey to hospital patient libraries all over the country was performed. The door-to-door survey to the overseas hospital patient library was performed. Reading environmental research of the children's home was performed. It turned out that there is a tendency to offer health care information positively. The mutual cooperation of a hospital and a citizen is a subject.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2011年度	700,000	210,000	910,000
2012年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総計	2,300,000	690,000	2,990,000

研究分野：図書館情報学

科研費の分科・細目：境界医学、医療社会学

キーワード：医療の質、病院患者図書館、患者情報コーナー

1. 研究開始当初の背景

近年、大学病院をはじめとする総合病院等において、患者サービスの一環として、情報提供の場となる病院内の図書館が注目されつつある。これは、院内情報提供サービスとして、医学や疾患の本や雑誌をはじめとして、

一般の書籍・新聞、これら検索の相談、また、製薬会社から提供されている薬や病気の冊子、検索の為にインターネット端末などを揃えている場で「病院患者図書館」という。その起源は、中世ヨーロッパの宗教関係者により薬のごとく図書が処方されたこととされ

ており、19世紀には「入院生活での読書は患者の苦悩を和らげる」と認識され、貸出しがフランスで始まっていた。現在、先進諸国の病院では、病院患者図書館が既に普及段階であるが、日本は立ち遅れている状況である。しかし近年、日本における患者の権利をめぐる状況の変化は、病院関係者の認識に大きな影響を与え、患者の自助努力の一助としてインフォームド・コンセントやセカンド・オピニオンとしての図書提供が注目され、病院患者図書館の設置数が年々増えつつある。「読書療法」という新たな診療も行われ始め、書物が患者の心のケアに役立つことがわかってきた。また、社会の高齢化に伴い、今後も医療費の増大が危惧され、患者の意識改革、情報の共有、医師と患者の信頼関係の確立等による治療効果の向上は、医療訴訟の減少および医療費減少に結び付くことも提唱されている。

2. 研究の目的

近年、院内の患者情報サービス拠点としての「病院患者図書館」が増えつつある。図書を通じ、患者自身が疾患の情報を得、学ぶことで、スムーズな治療や医師との信頼関係など二次的産物をもたらし、セカンド・オピニオンの役割も果たすと期待されている。本研究は、2007・2008年度に行ったこれまでの病院患者図書館における研究成果を元に、更に大きな枠組みで医療全体に及ぼす影響や可能性を研究・提案し、社会に貢献することを目的とする。

3. 研究の方法

(1) 病院に対する質的調査

大規模・中規模病院（病床数の多い2453施設）に対し、自由記述式アンケートの依頼を送付し、インターネット上での回答を得る。質問項目としては、①患者向けの医療情報コーナーの有無、②患者向けの図書の院内における場所、③娯楽書と医学書の提供状況や利用状況、④入院患者向けと通院患者向けの違い、⑤パンフレット類の提供状況、⑥インターネット閲覧設備の状況、⑦図書の貸し出しの状況、⑧患者向けの図書類の担当者の状況、⑨健康医療情報・図書の指導状況、⑩図書の消毒状況、⑪図書の消毒状況、⑫地域の図書館との連携状況、⑬その他の意見・感想、であった。

(2) 公立図書館に対する質的調査

全国の公立図書館（中央館1406館）に対し、自由記述式アンケートの依頼を送付し、インターネット上での回答を得る。質問項目

としては、①独立した健康医療情報コーナーの有無、②健康医療情報関連の書籍と雑誌の量、③闘病記や闘病記コーナーの状況、④健康医療情報に関する講座や講習会、⑤健康医療情報関係のレファレンスや相談、⑥スクラップやクリッピングの提供状況、⑦健康医療情報のパスファインダー・パンフレット・リンク集等の配布状況、⑧近隣の病院との連携状況、⑨健康医療情報や医学専門書の購入の意見、であった。

(3) 国内の病院患者図書館の訪問調査

全国の病院患者図書館ないし、読書環境が充実している病院を訪問調査し、実態を把握する。

(4) 国外の病院患者図書館の訪問調査

韓国の病院患者図書館を訪問調査し、実態を把握する。

(5) 児童養護施設の読書環境調査

病院内の読書環境と比較するため、特殊な集団生活を送っている児童養護施設における読書環境調査を行う。西日本地区の児童養護施設285施設（全国の児童養護施設の約半数）への往復はがき郵送による質問紙調査となる。質問項目としては、①施設の平均児童数・職員数、②子ども用図書等の所蔵数、③子ども用図書等の種類、④読書の必要性に関する意識と施設での現状、⑤子ども用図書等の購入予算と入手方法、⑥子どもの用図書等の設置場所、⑦職員やボランティアの図書等に関わる活動、⑧学校や公立図書館との連携状況、⑨子どもの目に触れないように配慮している図書、⑩自由記述、であった。

(6) その他、患者への情報提供に関する調査・研究

タバコに関する情報提供についての調査連携や、医療従事者向けのe-learningシステムの応用調査についてリスニング試験を題材にしつつ行った。

4. 研究成果

(1) 病院に対する質的調査

64カ所からの回答を得ることができた。病院における、読書環境提供の具体的な姿が明らかになった。

①患者向けの医療情報コーナーの有無については、独立した患者向け図書室があるという回答、および、スタッフ用医学図書室と併設した患者図書室があったとしたのは、それぞれ3件であった。オープンスペースに患者図書コーナーがあるのは18件であり一番多く、多目的な部屋の中に患者図書コーナーがあったとしたのは5件だった。

②患者向けの図書の院内における場所、に

については、代表的な結果は、「外来待合室」であった。その他、「総合病院図書室」を時間を区切って開放、「入院患者用ラウンジ」「各病棟デイルーム」「病棟談話室」「病棟のレクリエーションスペース」「健康情報コーナー」「がん情報室」「検査待合室」「手術室ご家族控え室」「小児病棟のプレイルーム」「救急待合い図書コーナー」「病院ホール」「人間ドック待合室」「小児科外来待合」「談話スペース」との結果のほか、未開放の独立した部屋から入院患者向けに巡回するという回答も2件あった。

③娯楽書と医学書の提供状況や利用状況、については、娯楽書の種類について、パンフレット、新聞、文庫本、固定の雑誌類、定期購読雑誌、定期無料提供雑誌が示されたほか、「コミックが最も好まれる」という回答もあった。入手方法としては「近隣の公立図書館から、廃棄予定の本を頂いている」「市立図書館から提供される図書を、毎月、病棟図書コーナーに配置・入れ替えを実施」「職員から提供される雑誌・マンガ等を、毎月、外来及び病棟図書コーナーに配置・入れ替えを実施」という点があった。利用状況に関しては「1日10数人の方が喜んで利用してくださっている」という回答があった。

医学書を提供しない回答が多かったものの、「患者向け医学書、食生活関連書籍約40冊と健康関連雑誌5誌（月刊誌4誌、季刊1誌）」という病院もあった。「疾患別に設置」「入院患者より、外来患者の利用が多い」「外来患者さんが自分やご家族の病気について調べるために利用」との回答もあった。

④入院患者向けと通院患者向けの違い、については、違いがないという回答が一番多かったものの、貸し出しの有無のほか、資料について「入院患者向けには、主に市立図書館から提供された小説類を配置し、通院患者向けには、職員から提供された雑誌・マンガ類を配置している」という回答、利用状況に関して、「入院患者さんは比較的一般書が多い。通院患者さんは医学書で調べる方が多い」「入院患者向けであれば、診療科に関する図書類に多くなり通院患者向けでは、健康に関する一般的な図書類かと思われます」との回答があった。

⑤パンフレット類の提供状況、については、無料情報誌、医師会や行政からの啓蒙書、製薬会社からパンフレット・フリーペーパー、国立がんセンターの癌関係のパンフレット、市内の公的機関からの案内、という既製のもののほか、自主制作として「当院独自の健康医療情報『現代版養生訓』21種類」「患者向

けの健康医療情報をA4用紙1枚に職員がまとめたものが30種程度」という回答もあった。インターネット上の情報を1枚あたり10円で印刷する場合もあった。

⑥インターネット閲覧設備の状況、については、設置しない回答が多く、設置の場合は1～4台であった。「10分100円の端末を2台設置」「全ベッドに備え付けの多目的テレビにて閲覧可能」「病室にインターネット回線設備を導入しておりますので、入院患者さん自身のパソコン持込みによってインターネット閲覧が可能」という回答もあった。

⑦図書の貸し出しの状況、については、貸し出し不可・院内のみの貸し出し・入院患者のみ貸し出し、持ち出し自由という形態があり、対象としては、入院患者、通院患者、付き添い者、地域住民が、方法として貸出簿に記入する場合があった。

⑧患者向けの図書類の担当者の状況、については、総務、庶務、医局秘書といった事務職員のほか、ボランティア、常勤・非常勤司書や、療育指導室、地域医療課企画事業室、医療サービス委員会の環境改善班、患者医療者パートナーシップ強化委員会委員が担当している。

⑨健康医療情報・図書の指導状況、については、「診察の際に各種啓発冊子や資料を配布」「糖尿患者の食事指導に本を活用」「母親学級での関連絵本の提供」「がんサロンの会員の方の闘病記文庫の利用」という回答があった。

⑩図書の消毒状況、については、アルコール消毒液を設置、アルコール噴霧消毒、返却本をすべてエタノールで拭く、目立つ汚れを落とす、抗菌ブックフィルムの利用、院外より持ち込まれた時にガス消毒という例があげられた。

⑪図書の消毒状況、については、寄贈のみ、決まった予算なしのほか、10万円から20万円の予算が中心となっていた。

⑫地域の図書館との連携状況、については、「県立図書館から業者による搬送・回収」「定期的に図書館にお願いして廃棄予定の本を頂いている」「外来患者が貸出を希望した際、県内のどの図書館に所蔵があるか検索し、患者に伝えている」「病院から帰宅する際に『図書館に寄って借りて帰る』という希望があれば、患者の最寄の図書館に、該当資料の取り置きをTELにて依頼」との回答がある。

⑬その他の意見・感想、としては、「外来に置いた図書がとにかく紛失します」「設置場所が確保できない」「医療情報のパンフレットは、大部分病院が作成して図書において

いる。既存のものは、質にばらつきがあり、使いにくい」「喜んでいただいている患者さんを見ていると、もっと多くの病院にも増えていくことを期待したい」「病気の治療に日々向き合われている患者様に、治療とは別に何か癒される空間・時間をご提供できればと考え、患者図書室を開設」という回答があった。

(2) 公立図書館に対する質的調査

193カ所からの回答を得ることができた。公立図書館における、健康医療情報提供の具体的な姿や、病院との連携状況、市民への健康医療情報提供の意義が明らかになった。

①独立した健康医療情報コーナーの有無、については、無：137カ所、有：42カ所であった。

②健康医療情報関連の書籍と雑誌の量、については、200冊から1万冊まで分散していた。

③闘病記や闘病記コーナーの状況、については、特別なコーナーが存在しないという回答が多く、具体的にはNDC490番台、916番台への配架が示されていた。「分類916のうち闘病記は、490.14の患者心理や、各病気の分類に変更して、医学のところに集まるようにしている」との回答もあった。一方、闘病記コーナーを設置しているのは30館であり、回答としては、『生と死』のコーナー、「病気別（がん各種、脳・心臓病、疾病各種）に細かく分類」「闘病記以外にも、介護体験を集めた『介護記』や、患者会などに関する情報の資料を集めた『情報』の項目も設置している」「闘病記コーナー』『シニアコーナー』『生きる力を与える本コーナー』の3つのコーナーを近くに設置」があった。利用状況について「あまり活用されていない」館もあった一方で、「年々利用率は上がっています」「よく利用されている」という意見が寄せられた。設置を検討中の館も4館あり、常設ではなく特別展や企画展として行った館が6館あった。

④健康医療情報に関する講座や講習会、については、図書館独自で行う必要はないと考えているという回答もあった一方で、健康保険センターとの複合館のため連携している場合もある。総合病院の協力で医療・健康相談会を定期開催する例が2件、市民病院や大学医学部・医科大学と協力し市民医療講演会を開催する例が4件あった。医中誌Web、J Dream IIといった医学データベース検索講習会や、職員向け研修会も述べられている。講座のタイトルの例としては次があった。「薬のはなし」「図書館を上手に使うには？ 1 健

康と医療の情報を集めよう」「医療・健康情報提供のためのスキルアップ講座」「がんと向き合って」「がん患者の悩みとは？—体験者の助言や情報を得るには—」「生きるための緩和ケア—がん緩和ケア最前線—」「『がん』にならないために食材と『がん』の芽対策」「赤ちゃんをむかえるための絵本選びと保健師さんのおはなし」「新型インフルエンザ」「21世紀のインフルエンザ」「科学・医学文献データベース JDream II の利用講座」「公共図書館における医療情報の提供」「医療・健康情報提供サービス」「パソコンを使用した医療情報の検索講座」「糖尿病に関する講演会」「シックハウス症候群ってご存知ですか」「元気で長生きできるコツは？」「健康へのアプローチ身近な食から考える」「生を衛るバランス感覚を持ったセルフケアのすすめ」「シニアのためのユルヨガ教室」「顔で笑って、心も元気で、あなたの心にタッチ」「出雲にもたらされた華岡流医術の世界」「わかりやすい健康に関する情報講座」。

⑤健康医療情報関係のレファレンスや相談、については、レファレンス数が増加傾向という指摘が3館あった。病気や治療についての詳しい情報、カルテの医学用語、病院や医師について、健康法・栄養管理、検査結果の読み方、処方された薬の情報、大学生のレポートや看護師の研修への対応、医療制度の調査、医療過誤を訴えるための調査、市町村図書館から中央館への調査依頼・選書相談に分けられる。具体例を次にあげる。「新型インフルエンザ及び花粉症」「漢方療法」「アルツハイマーと白砂糖」「うつと食事の関係」「子どもの病気」「精神疾患」「体操、ストレッチ」「子宮の病気」「入院拒否や施設への入所」「カリウムを摂らないレシピ」「『乳がん』等の最新治療」「認知症の簡単な本（むずかしくないもの）」「全般性不安障害」「パニック障害」「先天性代謝異常」「有効な治療法の有無」「手術を伴わない治癒法の有無」「ピロリ菌」「がん、心臓病、腰痛、高血圧等に関する資料についての問合せが多い」。その他、プライバシーとの関係で図書館が悩む状況や、病院へ行くことを勧める境界、専門的な資料がなく苦慮する姿がうかがえた。

⑥スクラップやクリッピングの提供状況、については、行っている館は僅かではあるものの、「高知新聞および毎日新聞に掲載された健康・医療関係の記事のうち、担当職員が把握したものを、随時クリッピングしている」「市民に関係するもの、県の情報（新聞など）については切り抜き等をして医療コーナーに掲示しています」「朝日・毎日新聞の

医療・健康関連記事のスクラップを病気別にファイリングし、閲覧可能な状態で提供している」「ボランティアによる『高齢福祉』のクリッピングが閲覧できるようになっている」という例が報告された。

⑦健康医療情報のパスファインダー・パンフレット・リンク集等の配布状況、については、配布依頼のあったパンフレット・公的機関発行のパンフレット・医療情報ホームページを印刷したパンフレットを随時配布やファイリング、講座や地域情報と関連させたパスファインダーやリンク集の設置、ブックリストの自館作成に分けられた。

⑧近隣の病院との連携状況、については、団体貸出、資料宅配サービス、移動図書館車派遣、リサイクル本の寄贈、近隣病院と相互に広報案内・ポスター・チラシ・リーフレットの設置、読み聞かせ活動、人形劇公演活動、病院の本棚の積極的な維持・入れ替え、図書選定での相互協力、リクエストの受付、健康相談会や講演会の講師の依頼に分けられる。たとえば、「市民病院への団体貸出（月1回外来者用）、個人貸出（月1回、入院患者・医療関係者用）さらに市内の病院1カ所と今後の貸出（個人貸出）」「市民病院の小児病棟プレイルーム（許可の出ている入院患者と見舞い客のふれあいコーナー）に、絵本・紙芝居・よみものなどを配本。月1回の入替。市民病院のロビーにて月2回、主に入院患者と見舞い客向けに、大人用小説・簡易な実用書・子供用よみもの・実用書・絵本などを貸出」という記載が代表的である。また、「病院が図書館の隣にあるので特に連携はしていない」という例もあった。

⑨健康医療情報や医学専門書の購入の意見、については、数多くの意見が寄せられた。「健康医療関連に特化せずに、収集方針に則って購入している」「一つの分野だけ特にとするのは、予算面からも、情報の新鮮さからも難しい」という意見があったものの、健康医療情報の意識的な提供については積極的な意見でおおむね占められた。しかし、医学専門書については「職員の専門的能力、資料費の両面から現状の図書館で、医療情報の提供や医学専門書を購入することは不可能であると思う」「知識や金額、利用頻度等、難しい面も多い」という指摘が多かった。その解決案として、医学部のある大学や、病院、国会図書館、県立図書館との相互協力を期待する声が30件程度寄せられた。購入に積極的な場合も、選書への悩みや、選書ツール充実の要望があった。下記において、具体的な記述を紹介する。

情報の入り口としての意義：「病院などは敷居が高い場合があるので、気軽に来れる図書館でそういった情報を提供できるのは良いことだと思う」「近年、健康や医療に対する市民の関心は非常に高く、気軽に健康・医療情報を調べられる場がますます必要とされてきている。こうした要望の受け皿となり得るのは公共図書館であり、積極的に応えてサービスを提供していくべきと思う」「まず気軽に調べられる第一歩は図書館ではないかと思います」「専門的な事は専門の方にお任せしまいといけないと思いますが、利用者に初歩の情報や選択肢を増やすための援助になるようにできるのなら、健康医療情報の提供を図書館が行ってもよいと思います」。

地域密着：「雑多な情報が氾濫している今、地域に密着した公共図書館が健康医療情報の窓口となることは、大切なことであると思っています」

ニーズ：「医療情報の提供を積極的に実施することが、住民から求められている、と考えている」「80歳以上の方々の利用も多く、また健康への関心も高いので絶対に必要だと感じます」「図書館が健康医療情報の提供を行うことは、大変重要と考えます。当館の市民の関心は高いです」。

図書館の責務：「『安心・安全』に関する情報の提供は公共図書館の責務の一つである」と考える」「公共図書館は、誰もが気軽に訪れ、整理された情報を、無料で自由に手にできる場所である。医学の専門機関より専門性に劣るとしても、より身近で分かりやすい情報を、展示やブックリストなどの工夫により、親しみやすく届けることもできる。健康な方もそうでない方も、不特定多数の方が訪れるため、広報の場としても力を持つ。この公共図書館ならではの長を活かした情報提供によって、健康な生活の維持やQOLの向上を支援していくことには大きな意義があり、関連機関の活動をより促進する効果も見込むことができる」「市民が求める情報を提供することは公共図書館の使命といえます。健康医療情報の提供もその一環であると考えます。医学専門書は、利用者の要求するレベルを考慮して検討し、必要と思われる資料は収集します」

近年の状況：「望ましいし、今後ますます、充実していくべき分野だと認識している」「健康医療情報や情報を得るための手段を利用者に提供することは、今後更に求められていくと感じる」「これからは必要かと思う」「利用者ニーズも高く必要なことだと考えます」「時代の潮流として、今後は取組ん

で行くべきものであるとは思いますが」「健康や医療についての情報は、どの利用者（住民）の方にも関わることでありますので、その意義・重要性はよく理解しているつもりです」「小子高齢化が進む中で、市民の健康医療情報に対するニーズは今後も高まるとと思われる。これに伴い、図書館が関連図書を提供する意義も大きくなると考えられる」「以前は消極的な分野であったと思いますが、相当の規模の図書館であれば購入、提供は必要と考えます」

医学資料：「医学専門書の中には高価なものもあるので、気軽に利用できるという意味において、図書館としてもある程度購入する必要があると思う。」「信頼できる医療関係資料であれば、提供すべきだと思います。医学専門書は、ニーズがあれば、予算の範囲で購入を検討します」「医学専門書についても利用者のニーズを考慮し多様な情報を提供できるよう努めたいと考える」「医学専門書等の購入、選定においては、予算の状況にもよりますが、医療、福祉、介護、リハビリ等最新、最適資料を選定し購入計画を図っております」

課題解決：「自分で欲しい情報（病気や病名・薬剤・病院等）にたどりつくための手段として必要」「住民のニーズもあり、課題解決のために必要と考えている」「利用者自身やそのご家族の方がかかった病気や飲んでいる薬について知りたいというレファレンスが多くのため、また情報を身近に得ることができる拠点として図書館はあるべきなので、健康医療情報の提供は充実させたい」

(3) 国内の病院患者図書館の訪問調査

各地の病院患者図書館を訪問調査することにより、現状の把握と課題の抽出を行うことができた。

(4) 国外の病院患者図書館の訪問調査

韓国のソウル市における、病院患者図書館の状況を訪問調査し、急速に拡大しつつある韓国の病院患者図書館の状況や、設立の経緯、今後の展望について、明らかにすることができた。

(5) 児童養護施設の読書環境調査

児童養護施設では、予想していた以上に、幅広い種類の資料をそろえ、読書への大きな期待をもち、「読み聞かせ」等を日常的に行っている。積極的・主体的に養護を必要とする子どもたちの読書環境や活動の充実に寄与している児童養護施設の一部が窺える点が参考になった。

(6) その他、患者への情報提供に関する調査・研究

タバコに関する情報提供についてたばこの外装についての教育的観点から、警告の意義が明らかになった。医療従事者向けのe-learningシステムの応用調査において、学習の意義が明らかになった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計2件)

- ①対崎奈美子、前田稔、子どもの患者と本をつなぐソウル大学患者図書館、学校図書館、727号、査読無、2011、61-63
- ②前田稔、鈴木一夫、たばこ警告表示の調査と教材としての応用－健康情報の学習機会－、東京学芸大学紀要 総合教育科学系 I、62集、査読無、2010、97-106

[学会発表] (計3件)

- ①前田稔、須永昌代、中澤重夫、木下淳博、英語リスニング監督シミュレーション教材の開発と運用評価－大学入試センター試験における瞬時で正確な対応への医学教育の応用－、日本テスト学会、2012年8月22日、東京医科歯科大学（東京都）
- ②前田稔、公立図書館における健康医療情報コーナーおよび病院患者図書館の現状と課題：全国調査における自由記載結果、日本図書館情報学会、2011年11月12日、日本大学（東京都）
- ③前田稔、児童養護施設における読書環境・活動の現状と課題－西日本地区の児童養護施設を対象とした調査を通して－、日本教育学会、2011年8月25日、千葉大学（千葉県）

6. 研究組織

(1) 研究代表者

前田 稔 (MAEDA MINORU)
東京学芸大学・教育学部・准教授
研究者番号：20376841